

未来の暮らし方を語る ワークショップ ニュースレター Vol.1

「スマートシティ」をテーマとしたワークショップを開催しました！

周南市では、周南市スマートシティ構想に基づき、「活力ある豊かなスマートシティ周南へ変革する」ことを目指して、新しい試みがスタートしています。その取組の一つとして、スマートシティモデル地区となった「周陽・遠石地区」の住民、学校関係者、大学生の皆様と意見交換を行いながらスマートシティを具体化するための第1回ワークショップを、令和3年10月20日(水)に、遠石市民センター「万葉プラザ」で開催しました。

【開催概要】

日時 令和3年10月20日(水)
19時～

場所 遠石市民センター「万葉プラザ」

参加者 19名

【当日のプログラム】

- 1 挨拶・趣旨説明
- 2 3班に分かれて意見交換
- 3 各班での話し合い結果の発表

ワークショップの様子 ～困りごとや悩みごと、やりたいことの共有～

今回のワークショップでは、高齢者、子育て層、若者世代、周南緑地利用者といった地区内の人物像をイメージしながら、「地区内での日々の生活や活動における困りごとや悩みごと・やりたいことを共有する」をテーマに、3つの班に分かれて意見交換を行いました。

参加者から出された意見を、進行役が付箋紙に書き込み大判の用紙にどんどん貼り付けていきました。参加された方の年代や日々のライフスタイルに応じて、たくさんの意見が出されました。



和気あいあいとした雰囲気での意見交換



たくさんのご意見をいただきました

ご意見まとめ

ワークショップで出されたご意見の一部を、要約してご紹介します。

■住み続けたいと思う街

- ・高齢者や若い世代が住みやすい街、きれいな街に
- ・若い人が住みやすい環境(遊び場等)を整え、若い世代に来てもらえる街にする

■買い物・外出

- ・買い物する場所が少なく困っている
- ・徒歩で買い物に行き、荷物を持って帰宅するのが大変
- ・トイレが少ない。トイレをきれいにしてほしい

■健康づくり

- ・健康の意識は高いが、健康づくりに取り組む一歩が踏み出せない
- ・高齢者は家から出る人と出ない人の二極化している
- ・自宅の階段を登れない人もいる

■居場所・学び・子育て

- ・子供たちの居場所や集まれる場所が欲しい(特に雨天時が困るので室内)
- ・若者が遊べる場所(ボーリング等)が少ない
- ・イベントをしてほしい
- ・子供一人ひとりに応じた教育をしてほしい
- ・同世代の相談相手がいなく、子供のことを相談しづらい
- ・将来の子育て環境をイメージできるようにしてほしい

■情報の集約化

- ・色々な情報が分散していてわかりにくい
- ・知ろうとしないと情報が来ない
- ・ワクチン予約時は、システムに不慣れな高齢者は困った
- ・病院や体育館等で、利用状況の把握や予約ができるものが欲しい
- ・災害時には不安なので色々な情報が欲しい
- ・色々な地域の活動も必要な人に届かない

■地域との繋がり

- ・人と人との繋がりが、魅力ある街に繋がるのではないかと
- ・施設等のハード面も大切だが、人と人との繋がりも必要である
- ・非常時以外も気軽に繋がる場やコミュニティの構築が重要

■安心安全な暮らし

- ・緑地や夜道は暗く、一人で歩くのが怖い
- ・野犬が多い。通学の途中で野犬を見かけて危険。安心安全に遊べるようにしてほしい
- ・交通量が多い。歩行者が横断するときには危ない。狭い道路や暗い道が多い
- ・災害時にいつどのくらいの災害が発生するかわからず、不安である
- ・親が離れたところに住んでいるので見守りが出来ず心配

■安心安全な公園

- ・夜に安心してジョギングしたい
- ・暗いので見通しをよくしてほしい
- ・野犬が多い。野犬の影響でマダニも多く危険

■周南緑地の管理

- ・雑草が多い、路面が痛んでいる等、維持管理に問題がある
- ・トイレが少ない。キレイな洋式トイレが欲しい

■公園の魅力づくり

- ・緑地には魅力のある原石が沢山ある。緑地に人が来やすくなる工夫が欲しい
- ・土日は大会で埋まっている。Web配信してほしい
- ・駐車場、公共交通、近くのお店が少ない
- ・グリーンベルトは重要な地域資源。グリーンベルト等の他市にはない魅力を磨いて、発信するのが重要
- ・緑地の活用計画を大学と連携すれば面白いのではないかと
- ・少子化で町内に幾つかある小さな公園を持て余している

問合せ

周南市企画部 情報企画課 スマートシティ推進室

TEL 0834-22-8236

E-mail joho@city.shunan.lg.jp